

2026年4月27日

千葉県市原市の大型ショッピングモール「ユニモちはら台」、東洋スチレン、ヤクルト本社 飲用後のヤクルト容器の回収・再資源化の取り組みを協働で実施

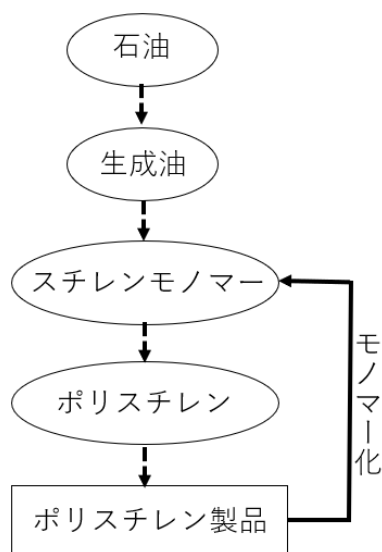
株式会社ヤクルト本社（社長 成田 裕）は、千葉県市原市の大型ショッピングモール「ユニモちはら台」に飲用後のヤクルト容器（ポリスチレン製）を回収する専用ボックスを設置し、回収した容器を東洋スチレン株式会社（以下「東洋スチレン」）にて再資源化する取り組みを2026年4月27日から協働で開始します。

本取り組みは、「市原市ポリスチレンケミカルリサイクルシステム推進協議会」（以下、協議会）会員である「ユニモちはら台」、東洋スチレンおよび当社が協働し、市原市が掲げる「市原発サーキュラーエコノミーの創造」に向け、2024年から協議会の「乳酸菌飲料容器水平リサイクル検討部会」においてしくみを検討してきたものです。その中で、2024年から「ユニモちはら台」において実施した3回の回収試験により、異物や汚れが少なく、再資源化に適した飲用後のヤクルト容器を回収できることが実証でき、実現に至りました。

今後は、ポリスチレン資源として飲用後のヤクルト容器を回収し、ケミカルリサイクル※によりポリスチレン樹脂に戻したうえで、再び「ヤクルト」の容器に再生する資源循環を進めます。

ヤクルトグループは、人と地球の共生社会の実現を目指す「ヤクルトグループ環境ビジョン」の中期目標である「環境目標2030」を、これまでの進捗状況および昨今の社会情勢などを加味して2025年5月に見直しました。今後、「持続可能なプラスチック容器包装の推進」を目指し、本ビジョンのもと実効性のある取り組みを推進していきます。

※使用済みポリスチレンを高温下の熱分解と蒸留精製によりポリスチレンの原料であるモノマーに戻し、再びポリスチレンを製造するリサイクル方法。



ケミカルリサイクルのイメージ



回収用専用ボックス

以上

■ 「ユニモちはら台」概要

- ・所在地：千葉県市原市ちはら台西3-4
 - ・店舗面積：31,363㎡
 - ・営業時間：10:00～21:00（年中無休）
（レストラン 11:00～22:00）
- ※一部店舗により営業時間が異なります。
- ・施設ホームページ：<https://unimo-chiharadai.com>

■ 市原市ポリスチレンケミカルリサイクルシステム推進協議会

設置目的：使用済みポリスチレン製品の資源循環の輪をつなぐためには、公民連携により多数のステークホルダーが一体となって取り組む必要があります。それぞれの役割を担うステークホルダーが参加する協議会で検討を重ね、ケミカルリサイクルの推進およびリサイクル製品の普及・展開を目指します。

活動参考：臨海部コンビナートとともに挑む 市原発サーキュラーエコノミーの創造

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=629d943c82635255e3495ed2>